



第18回ちば Basic and Clinical Research Conference が開催されました

千葉大学医学部では令和7年1月30日に、みのはな記念講堂において第18回ちば BCRC が開催されました。参加者は学生358名、教員・来賓等22名でした。

ちば BCRC は「千葉大学の医学研究」の側面を学生と教員とで共有する会です。医学部スカラーシッププログラム（研究室配属）で得られた成果を発表する学生発表セッションと、先生がたの研究・キャリア紹介の講演で構成されています。また、会の企画・運営には18名の有志の学生事務局員が取り組みました。

初めに、7題の学生発表が学生座長の司会のもと行われました。研究の実践の深さばかりでなく「プレゼンテーション」という面でも大変力がそそがれていました。いずれも見事な発表でしたが2名の最優秀賞が選出されました。

研究室紹介は、免疫発生学 平原潔教授、産婦人科学 甲賀かをり教授の講演でした。お二人とも複雑な病態を大変わかりやすく紹介してくださいました。また医学にとどまらず社会に及ぼす今後の展望にまで言及する視野の広い魅力的なお話でした。

続いて三木隆司医学部長より心のこもったご講評を頂き、スカラーシップ賞（学生19名、教員等15名）・千葉医学会奨励賞（2名）の授与が執り行われました。吉原俊雄みのはな同窓会長からは学生に向けたエールとみのはな同窓会長賞7名の表彰をいただきました。また、3年次のポスター発表の中から4名にスカラーシップ優秀ポスター賞が授与されました。受賞者は年々多くなり、医学研究を実践できる環境が整いつつあること、受け入れる先生がたのお力の偉大さを実感します。

最後に千葉大学学長 横手幸太郎先生の特別講演が千葉大学理事 中谷晴昭先生の座長で執り行われました。希少難病をきっかけに始められた老化研究を医学の広い分野に展開させ、社会現象にまで発展させた圧倒的な実践力に、聴講者全員が強い感銘を受けました。

引き続き行われた情報交換会も盛況で、研究・学生生活・将来に関して多くを語り合える一日になりました。

（文責：坂本）



スカラーシップ賞の受賞式



BCRCでの発表学生に送られる
みのはな同窓会長賞



横手学長の特別講演